

平成 29 年度事業の総括

平成 29 年度の沖縄観光の入域客数「ビジットおきなわ計画」目標 950 万人（海外 265 万人）に対しまして、957 万 9,000 人（国内 688 万 7,000 人・海外 269 万 2,000）で、対前年比 80 万 9,800 人増加、率にして 9.2%の増加となり、5 年連続で過去最高を更新した。

前年度と比べ増加の要因としては、羽田一那覇路線の増便拡充や離島への直行便も好調であり国内客の増加につながった。外国人観光客については、クルーズ船の寄港回数は前年比 128 回増の 515 回と大きく増加したことにより、海路客が大幅に増加した、特に台湾からのお客様が空路・海路客ともに増加し初の 80 万人台と好調であった。

行政や民間が一体となったプロモーション活動により、沖縄の認知度向上や旅行意欲の喚起を図った事で国内外の航空路線の拡充により入域客数の増加となった。

名護市観光協会では、県内外からの観光客誘致のため実施している、第 39 回名護市長杯争奪全島ハーリー大会（約 6,500 人）、第 56 回名護さくら祭り（二日間・120,348 人）のイベントを実施したほか、その他、名護市 PR 事業として、東京都にて日本さくらの会総会・群馬県館林つつじ祭りや、北海道日本ハムファイターズ札幌応援ツアー&名護デーに名護さくらの女王を派遣し名護 PR を行った。

誘客受入態勢強化（教育旅行事業）に於いて、OCVB,各観光協会と連携を図り四国方面での旅行社を対象に、ハーリー体験と名護まちなか散策ガイドの PR 説明を行った。また、名護市のイベントとして日本一早いさくら祭り等を名護市のパンフレット・DVD を活用して PR を行った。

第 44 代名護さくらの女王選考会も昨年度より 5 名増加の 12 名がエントリー、参加率を高める為にも、市民をはじめ、各企業・団体へ協力派遣の強化を図って行きたいと思えます。ハーリー体験事業の受入につきましても、修学旅行 1 校・企業 1 社に留まり、先方の都合によりキャンセルがあったものの、引き続き体験型商品の PR 強化を行ってまいります。

地域連携事業として、おきぎん JCB と本部半島（名護・本部・今帰仁）観光協会との地域活性化に関する協定を締結した、本部半島に年間 500 万人以上の観光客の需要を取込む為にキャッシュレスに関するインフラ整備を進め国内外の観光客の消費を引き出す事により、観光振興と北部地域の活性化施策を実施する事を目的とした連携事業を実施。

次年度も「本部半島 JCB ショッピングロード」作成に向けて取組んで行きたい。その他の事業においても、名護市商工観光局をはじめ各市町村・各観光協会並びに各団体と連携し、本市の魅力ある観光資源の PR と観光客の誘致拡大に取組んでいく。

【会 議】

- 第 1 回理事会 【平成 29 年 5 月 19 日（金）15 時～ 名護市産業支援センター2 階会議室】
- ・平成 28 年度事業報告及び付属明細書の承認の件
 - ・平成 28 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び付属明細書並びに財産目録の承認の件
 - ・監事候補者名簿選任の件
 - ・評議員開催日日時及び場所並びに議案事項について
- 第 1 回評議員会 【平成 29 年 6 月 12 日（木）16 時～名護市商工会会長室】
- ・平成 28 年度事業報告及び付属明細書の承認の件
 - ・平成 28 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び付属明細書並びに財産目録の承認の件
 - ・監事選任承認の件
- 第 2 回理事会 【平成 29 年 9 月 21 日（木）17 時～名護市産業支援センター2 階会議室】
- ・平成 29 年度事業計画補正（案）について
 - ・平成 29 年度収支予算補正（案）について
- 第 3 回理事会 【平成 30 年 1 月 17 日（水）15 時～名護市観光協会事務所】
- ・名護市中心市街地活性化事業「街バル」実施承認の件
- 第 4 回理事会 【平成 30 年 3 月 22 日（木）16 時～名護市産業支援センター2 階会議室】
- ・平成 30 年度事業計画（案）について
 - ・平成 30 年度収支予算（案）について

【公益目的事業】

1. 2017 海フェスタ in 名護の開催

平成 29 年 4 月 1 日(土)21 世紀の森ビーチに於いて、ビーチクリーンを各企業・団体含め約 100 名の動員がありました、また、名護市はじめ観光協会役員関係者で海の安全祈願祭を行いました。また、第 43 代名護さくらの女王の夏服のお披露目も行った。

2. 企業を取り巻くサイバー犯罪講習会

平成 29 年 6 月 28 日（水）14 時～名護市産業支援センターに於いて、沖縄県警察本部サイバー犯罪対策課の協力を得て講習会を開催した。昨年度、県警に寄せられた同犯罪に関する相談受理件数は 1,324 件で年々増加しており、サイバー犯罪の現状やインターネットを利用する際に遭いやすいトラブルへの対処法を勉強した。参加者 70 名受講

3. 第 39 回名護市長杯争奪全島ハーリー大会

観光振興及び漁業振興を図る目的で、平成 28 年 8 月 6 日(日)名護漁港構内において 180 チーム 2,700 名の選手が参加し観客を含め約 6,500 名の動員数があり『ハーリー甲子園』と呼ばれるにふさわしい県内最大のハーリー大会が行われた、前日から台風の影響で開催が厳しい状況でありましたが、名護漁港の協力があり無事開催することが出来ました。

【男子の部】

優 勝：	沖縄水中処分隊	(うるま市)	3. 29. 31
準優勝：	チームタクミ	(糸満市)	3. 30. 06
三 位：	名護市消防本部A	(名護市)	3. 38. 63

【女子の部】

優 勝：	オートパワー	(名護市)	1. 46. 79
準優勝：	SUMMERDORAGONS	(那覇市)	1. 47. 30
三 位：	友遊海	(名護市)	1. 47. 50

4. 観光人材育成プラットホーム事業（英語講習会）講座の開催

平成 29 年 9 月 8 日～10 月 27 日（15 日間/30 時間）

外国人観光客が年々増加しており当協会として賛助会員及び関係機関へご案内をし英会話を通してお客様の満足度を高めるためのスキル・知識の向上を図り自信を持った接客ができることを目的に OCVB より講師を派遣していただき宿泊施設・観光施設の若手スタッフ 10 名が受講した。

5. 第 44 代名護さくらの女王選考会

平成 29 年 12 月 16 日（土）、名護市産業支援センター大会議室で行われた、さくらの女選考会において前川 咲野さん・稲嶺 里美さん・日下部 安奈さんの 3 名が第 44 代名護さくらの女王に選ばれた。3 名の女王は、1 年間の任期で名護市の親善大使として、県内外で名護市の PR 務めている。

6. 第 56 回名護さくら祭り開催

「日本の春はここから始まる」をキャッチフレーズに、平成 30 年 1 月 27 日と 28 日の 2 日間開催。今年は、祭り期間に開花が間に合い 8 分咲きで訪れたお客様も喜んでいただいた。例年通りシャトルバス桜見号も漁港⇄名護城の桜見学を実施（二日間利用者 610 名）今回からシャトルバスで沖縄美ら島財団と連携をし漁港⇄アグリパーク（二日間利用者 33 名）が利用した。また市街地では、名護大通りをトランジット化させ市民参加型のイベントを実施、また名護漁港で開催されたガーデンフェスタ会場にも多くの方が来訪、友好都市の滝川市・八幡平市・館林市・枚方市の関係者を始め、市内外から、約 120,348 人余（本部前 2 日間統計）が名護市を訪れた。

7. ハーリー体験事業

平成 30 年 3 月 17 日（土）21 世紀ビーチにて、企業 30 名を受け入れた、漁業組合・ハーリー関係者の協力をいただき安全な海の体験事業を行うことが出来た、着順を競うハーリー競漕は、『名護ハーリー』チームビルディングプログラムを取り入れ、団結力・達成感が図られチームワークと組織力向上に寄与します、今後も旅行社への PR を行っていきたい。

8. やがじ夢の架け橋事業

平成 29 年 6 月～平成 30 年 2 月（8 ヶ月間）

最終年度となる本事業において、観光関連事業者の参入により地域の資源を活用した体験メニューの開発及び提案が寄せられており、地域と観光関連事業者等との共存に向けたルールづくりに向けて、地域住民の意見を互いに共有する場をつくり地域の課題を整理する目的で委託業務を行いました。

やがじ地域の区長会をはじめ関係者と意見交換を重ね、民泊事業や体験型商品を発信したい意見が多くワークショップやモニターツアーを実施し地域における「住んでよし」、「訪れてよし」ルールを作成した。

島民一人ひとりが、観光という手段を使って、農業や漁業、飲食業、製造業などの地場産業を含めて地域を総合的に考え、地域のあるべき姿を持続させていくことが最重要である。

地域懇談会：5 回（72 名）

ワークショップ：1 回（37 名）

モニターツアー：1 回（民泊体験者 7 名）

【協力事業】（付属明細）

1. 日本さくらの会中央大会総会

平成 29 年 4 月 11 日～13 日の日程で、東京/憲政会館にて第 52 回さくら中央大会へ第 43 代名護さくらの女王伊佐 碩子さんと職員 1 名を派遣した、名護市は県内唯一の日本のさくら 100 選出されており、さくら前線は南の名護市から日本一早いさくらの PR を行った。

2. 第 24 回羽地ダム鯉のぼり祭り

平成 29 年 5 月 6 日・7 日の日程で開催されました、鯉のぼり 300 匹を掲揚して地域の関係者を中心に祭りを盛上げておりましたが、二日間共に悪天候のため昨年度より 14,221 人減の 6,025 人であった。観光協会と致しましては、名護さくらガイドによる羽地地域の歴史・文化・自然を満喫できる羽地ジブンウォークを行い参加者数 40 名が地域資源を学びました。

3. 北海道日本ハムファイターズ札幌応援ツアー

平成 29 年 5 月 25 日～28 日の日程で、52 名の応援団を札幌ドームに派遣し、ファイターズと西武ライオンズ戦を観戦した、グラウンド内では、さくらの女王からの花束贈呈や歌を披露、名護市関係者でベースランニングやチアガールと一緒に YMCA 等も踊り会場を盛り上げた。また、スタンド裏では、名護市の特産品の販売も同時に行い約 3 時間名護市を PR する事が出来た。

4. 第 29 回 ツール・ド・おきなわ 2017 の協力

平成 29 年 11 月 11 日（土）12 日（日）

第 29 回を迎えたツールドおきなわ今年は、4,891 名（県内 2,001 名・県外 2,465 名・海外 425 名）対前年より 150 名増加となった。中でも、一輪車・三輪車で県内 380 名エントリーがあり子ども達の認知度が高まり年々参加者が増加している。

5. 2017 冬の街フェスカリークリスマス in 名護

平成 29 年 12 月 23 日（土）

名護市十字路商店連合会主管による名護市のシンボル「ひんぷんがじゅまる」の価値を市民が再認識すると共に保護・保全にムーブメントを上げ末永く輝き続けること願い、第 3 回目のイベントが行われた。当日は、約 3,000 人の来場を頂きディアマンテスのライブが始まると会場は最高潮に達した、来場者からは次年度も開催してほしいとの声が上がっている。

6. 第 30 回 名護・やんばるツーデーマーチの協力

「健康と生きがいづくり」をテーマに、平成 29 年 12 月 9 日・10 日の 2 日間開催、3km から 40km までの 8 コースに 2,437 名（県外参加者 788 名）が参加、秋のやんばる路ウォーキングを楽しんだ。名護市全域を舞台にしたこの大会は、日本マーチングリーグ公認 18 大会の一つで、年末、しかも唯一亜熱帯での大会とあって、最も人気のある大会となっている。観光協会は、商工観光局と連携をし大会本部及び各コースの運営業務を行った。

7. 北海道日本ハムファイターズ春季キャンプ支援

2 月 1 日～15 日間アメリカアリゾナ州にてキャンプを行い、16 日～10 日間名護市でキャンプを行った、新球場建設工事中により他球場での練習試合を主に調整を行った。

また、少年野球教室や児童施設への訪問も行い、子ども達に夢と希望を与える地域協力も例年通り行って頂いた。

2020 年 2 月新球場開設に向けて、名護市と連携を図りながらファイターズ名護協力会として受入協力と支援を行って行きたい。

8. オープン戦の応援支援

平成 30 年 2 月 24 日（土）北谷球場に於いて、ファイターズ対中日ドラゴンズ戦の応援に名護協力会としてバスを 1 台貸切約 40 名が応援に駆けつけた。

超高校スラッガー清宮選手を人目見ようと、ファイターズ・ドラゴンズファン共に約 3,000 人が北谷球場に足を運んだ。試合結果は、6 対 4 でファイターズの勝利であった。

9. がじゅまる DE 街バル（市街地活性化支援事業）

平成 30 年 3 月 17 日（土）～24 日（土）の期間、中心市街地のにぎわいの創出及び市街地活性化を図る目的で、名護市・商工会・観光協会・市営市場管理者と連携して、市街地の飲食店舗（45 店舗）の協力えて食べ・飲み歩くイベントを開催。チケット 1,800 枚：1,800,000 円の売上げがあり市街地の PR と売上向上につながった。また、同イベントの最終日には、東京ディズニーリゾート 35 周年の記念イベントが行われ、35,000 人の観衆が訪れ、市街地のにぎわいの創出となるイベントとなった。

【収益事業】

市営駐車場指定管理事業

平成 27 年度から平成 29 年度

沖縄県のリーディング産業に成長した観光産業において、県内に訪れる観光客をいかにして本市へ誘客するか、各市町村において取組んでいるところでありますが、本市においても様々な取り組みを行っているところであります。

特に中心市街地の活性化を図る為に、行政・各団体・市民が一体と成り各事業を展開しており、名護市の顔として市街地の継続的な発展が必要であると考えております。

市民は基より、県内のレンタカー利用者は年々増加しており駐車場は必要不可欠となっております、当協会が駐車場の管理運営することで、誘客のノウハウやこれまでの取組みを活かした市街地活性化、市内外から市街地へ訪れる方々の利便性の向上と集客の安定化を図ってまいりました。駐車場業務だけでなく、観光案内機能を備えたサービスの提供を実施し、利用者の満足度を高め、隣接する市営市場や市街地商店会と連携しスムーズな誘導を図ってまいります。

【賛助会員】

平成 29 年 4 月 1 日現在：205 社→【新規入会：19 社→退会：7 社】

平成 30 年 3 月 31 日現在：198 社

【本部半島活性化連携事業】

名護市観光協会・本部町観光協会・今帰仁村観光協会は、沖縄銀行/おきぎん JCB と地域活性化に関する協定を締結した、施策実施にあたっては、沖縄総合事務局や OCVB、沖縄美ら島財団の協力を得て、観光施設・宿泊施設・飲食店等各観光協会の会員情報の提供と観光スポットや地域行事を繋いだ観光ルートを構築し、本部半島に年間約 500 万人以上の観光客の需要を取込む為に県内初の産官金一体となったコンソーシアムを組成し、キャッシュレスによる地方創生施策を実行し、インフラ整備を進め国内外の観光客の消費を引き出す事により、観光振興と北部地域の活性化施策を実施する事を目的とした連携事業を実施。

次年度に向けて地域の回遊施策として「本部半島 JCB ショッピングロード」の作成を行っていく。